

昭和58年イタヤガイ漁獲について

西 田 輝 巳

鳥取県沿岸域の代表的二枚貝であるイタヤガイについて近年、その増養殖を目的として多方面からの調査が実施されている。しかしその漁獲統計は昭和50年代に入ると鳥取農林水産統計年報¹⁾より除項され現在に至っている。

その後のイタヤガイ漁獲統計は西田^{2,3)}に漁協資料を用いて報告されている。本報も同資料を用いて昭和58年漁獲動向を述べるものである。

材 料 と 方 法

各組合からの報告をとりまとめて累計した。しかし夏泊組合は全月、酒ノ津と御来屋組合は後半の数値が欠落しているが、ほぼ県全域を把握したものとして取扱った。

結 果 と 考 察

本年の県全域での水揚げは51.22トン、水揚高は2,010万円であり、単純平均単価は392円/kgであった。

この水揚げを昭和50年代の推移として図1にみると、50年代初めは約50トン/年で経過し、54年に186トンのピークを示したが、翌55年は17トンと激減し、以後20トン/年代に低迷している。

本年の水揚げは51トンであり、55年からの水揚量推移からみると年々微増しているが、この増加傾向が過去の様な豊漁につながるとは西田²⁾の過去21年の漁獲傾向からみた「イタヤガイ水揚げは減少の一途をたどっている」とイタヤガイのおかれた環境変化が少ない事より予想できない。

本年の水揚げの地区別水揚げ組成を図2に、主要漁協別経月変化を図3に示した。地区別に水揚げをみると本年の水揚げは境港市が過半を占め、次いで東伯郡が僅かに及ばない量の水揚げ、両地区で96.4%と県内の水揚げのほとんどを占めた。他の地区は残りの僅かな量を気高郡と岩美町が水揚げしていた。

この地区内の内訳は境港市では全て弓北漁協が、東伯郡では赤碕漁協が9割と泊漁協が残り水揚げしている。気高郡は例年一定量コンスタントに水揚げしている酒ノ津・浜村・青谷各漁協がわずかに水揚げしている。岩美郡では例年福部村漁協のみの水揚げであったが、網代・田後等の漁協も極く少量づつ水揚げしていた。

この地区別の水揚げを過去19年の区別^{2,3)}と比較すると本年の様な西域に片よった水揚げ型は今まであまり見かけず、昭和40・41・45年に同様な水揚げ型を認められただけである。各々の年の水揚げは1,105・

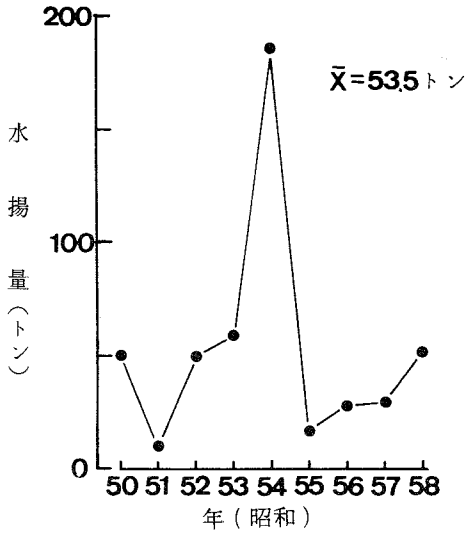


図1 昭和50年代のイタヤガイ水揚量経年変化
注) 漁協資料による。

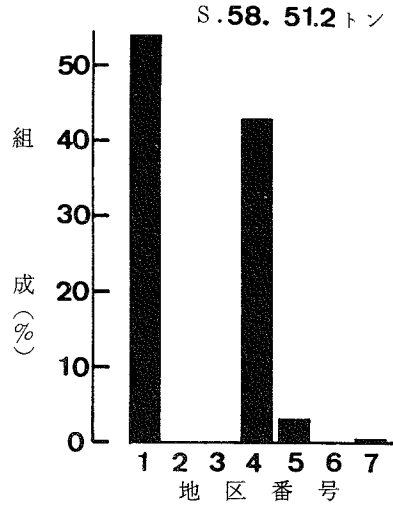


図2 昭和58年イタヤガイ水揚量による地区別組成
注) 地区番号は1より西の境港市、米子市、西伯郡、東伯郡、気高郡、鳥取市、岩美郡となっている。

347・74 トンと様々であり、40年は継続漁獲統計の始まって以来の水揚げ年、41年はその引き継ぎであった。しかし45年は43年のピークの落ち込んだ年に当たり、西域分布と豊凶の関連は見当らなかった。

以上の様に本年のイタヤガイ水揚げは西方、特に弓北・赤碕各漁協に集中していたが、これは本年の主な分布群が地蔵崎沖より中山沖の水深50m付近に分布したため、この漁場からの水揚げが他域の水揚げに加わって近年の20トン/年程度に上乗せされたものと思われた。

水揚げの季節的消長を図3にみると、一般的には昨年と同様に過去の平均的傾向^{2,3)}と較べ1~2カ月遅れ6月頃より漁期が始まり、夏期に盛期をむかえ、晩秋に終息していた。本図では各組合別に示したが、前述の主要水揚げ組合弓北・赤碕は同域群を対象としたため、ほとんど同傾向を示した。少ない水揚げの福部村漁協は地先沖群を捕獲したものと思われるが、7月頃ピークを示す過去の水揚げ型を示した。浜村漁協は西域の群と通年分布の地先沖群を混ぜて水揚げたため、漁期が極端に長くなったものと思われた。

以上が昭和58年の水揚げからみたイタヤガイの分布傾向であるが、本年のイタヤガイは聞きとり、標本船調査からみると主要水揚群である西域群は当才貝の混在する大小較差の大きな群であり、また泊沖のイタヤガイも当才貝の殻長差が大きな事が目についた。従って水揚貝の不揃いも一因して平均単価が392円/kgと昨年の497円/kgに較べ大幅に下回った。この同令貝の中での大きな殻長差は本年実施したイタヤガイ浮遊幼生調査の結果⁴⁾で述べた浮遊幼生の長い分布期間と2つの分布ピーク期の出現と関連した異母貝群に由来したものと思われた。

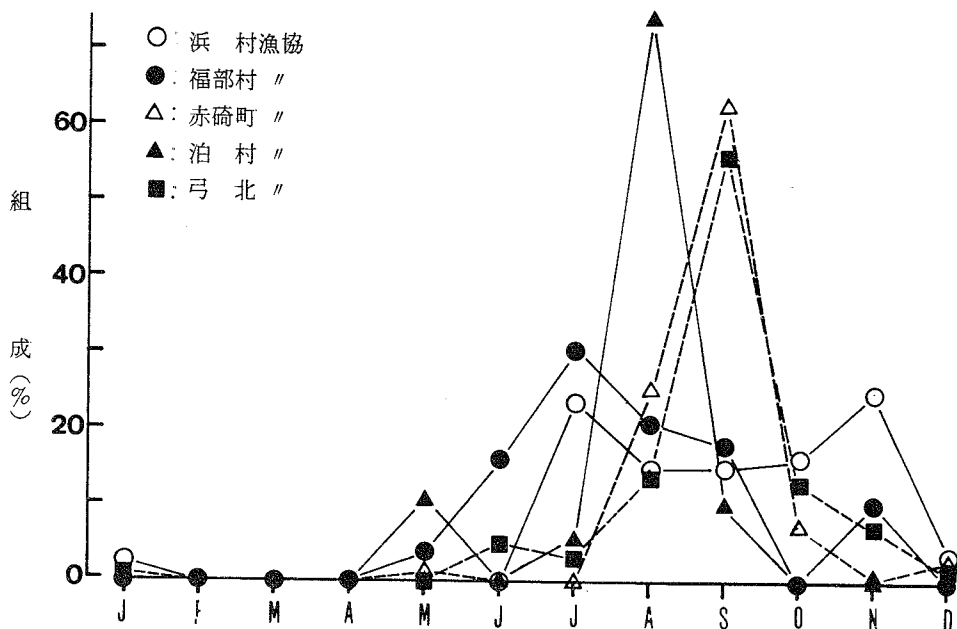


図3 昭和58年主要組合のイタヤガイ水揚量経月組成変化

摘 要

昭和58年イタヤガイ水揚げは次のとおりであった。

- 1) 本年の水揚げ量は51.22トン、水揚げ高は2,010万円、単純平均単価は392円/kgであった。
- 2) 地域別水揚げは西部の弓北・赤碓漁協が全体の96.4%とほとんどを占めた。
- 3) この片よった水揚げ型は過去にはあまりみられなかった。
- 4) 本年の季節別水揚げは主漁協では例年に較べ約1~2カ月遅れたものだった。
- 5) 本年のイタヤガイは大きさが不揃いであり、また当才貝も不揃いであり、その発生期と母貝に由来したものと思われた。

文 献

- 1) 中国四国農政局鳥取統計情報事務所：鳥取農林水産統計年報，7~22（1960~1975）。
- 2) 西田輝巳：鳥取県のイタヤガイ漁獲変動について，鳥取水試報24号，32~36，鳥取水試（1982）。
- 3) 西田輝巳：天然イタヤガイ分布，マリーナランディングプログレスレポート(3)，59~61，鳥取水試（1983）。
- 4) 西田輝巳：浮遊幼生分布，マリーナランディングプログレスレポート(4)，未発表。